

■児童・生徒の学力の状況

・授業に対する意欲は高く、「学びに向かう力等に関する意識調査」や「全国学力・学習状況調査」より学校生活を楽しみ、他者との協力を重視し、自ら学びを深めようとする意欲が高く。特に、理科における仮説設定や振り返りの活動への積極性が高い傾向であることがわかる。

・「全国学力・学習状況調査」では、理科で東京都・全国平均を上回り、高得点層も厚く、国語・数学も概ね都と同等か全国平均以上の水準であった。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

・事象、物事に対して、自分の意見をもち、それを相手がわかるように説明することが苦手な生徒が多いため、自分の意見を熟考し説明する機会を授業内で充実させる。

・意識調査において「授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う」の項目が都や全国と比較して低いため、教科横断型の授業実践を増やす。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○確かな学力の定着

板橋スタンダードを徹底し、ゴールを明確にしたねらいと振り返りを実施する。生徒が授業において、何を学習するのかを理解し授業に取り組むことができる授業を目指し、確実に知識・技能を習得させる。また、授業のまとめで振り返りを実施し、生徒が授業で学んだことを省察する機会を設け、次時の授業へつなげていく。

○目標実現と課題解決に向けて、粘り強く創意工夫する生徒の育成

「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善を通じて、生きて働く「知識及び技能」の習得、未知の状況でも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
・目標を明確にし、生徒へ周知すること。 ・振り返りの時間を設け、生徒に一単位時間を省察させ、考えをアウトプットさせること。	・国語科を中心に生徒が使用できる語彙を増やし、物事を順序よく説明できるように学習を進めること。	・各教科の学びを総合的な学習の時間で生かせるように教員が単元の配列について理解すること。 ・振り返りや成果の発表をする時間を設け、学びを定着させること。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
・探究的な取組をらせんスパイラル的に配置し、テーマを小中で検討していくこと。 ・郷土に根付いている「里神楽」について、小中の9年間の中で取り組み、保存と発展について考えていくこと。 ・指導案を小中の教員で検討する機会を設け、より効果的、継続的な方法を見いだしていく。	・単元配列表について、教員に周知し、理解を深める。また、活用について全員で考え、毎年更新をすることで他教科のカリキュラムについて教員が広い視野をもつ。 ・校内研修で他教科の授業を見学することで、他教科の学習内容について理解を深め、自分の教科に生かす。 ・他教科での学びと学習する事項がつながるように生徒に学習指導を行う。	・クロームブックの効果的な使用を検討、共有するとともに、Society 5.0時代を生き抜くために必要なスキルを生徒に定着させる。 ・主体的に学習に取り組むための授業をデザインし、すららドリル等を利用した個別学習の充実を図る。